

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月中
 基準日 定時株主総会および期末配当金 3月31日
 中間配当金(実施する場合) 9月30日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
 単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

| | 証券会社等で株式を保有されている場合 | 証券会社等で株式を保有されていない場合(特別口座の場合) |
|--|---|--|
| 住所変更、株式配当金受取り方法の変更 およびマイナンバーのお届出などのお 問い合わせ | お取引の証券会社等になります。 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部 ホームページ https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html |
| 未払配当金、その他当社株式関係書類に ついてのお問い合わせ | 右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願います。 | フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00) |
| 株主総会資料の電子提供制度(書面交付 請求)についてのお問い合わせ | 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00) | |
| ご注意 | 支払明細発行については、右の「特別口座の場合」のお問い合わせ先 をご利用ください。 | 特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。 株式の売買にあたっては、証券会社等に口座を開設し、株式の口座振替手続を行っ ていただく必要があります。 |
| 公告方法 | 電子公告によって行います。(https://www.carlithd.co.jp) ただし、事故その他止むを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 | |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 プライム市場 | |

2023年3月期 株主通信

2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日



絵：福井正文

株主優待制度の ご案内

毎期末(3月31日)、株主名簿に記載されている株主の皆さまに6月末に以下の通り
株主優待としてUCギフトカードをお送りいたします。

| 所有株式数 | 内容 | |
|-----------|------------------|-----------|
| | 保有期間3年未満 | 保有期間3年以上 |
| 100株~499株 | UCギフトカード 500円分 | 同 1,500円分 |
| 500株~999株 | UCギフトカード 1,000円分 | 同 2,000円分 |
| 1,000株以上 | UCギフトカード 1,500円分 | 同 2,500円分 |

ご留意点

①保有期間については、3月末日および9月末日を基準とする当社株主名簿をもとに、同一の株主番号で、100株以上の当社株式を連続して保有
している回数にて判定いたします。

◆保有期間3年以上とは…同一の株主番号で連続7回以上、100株以上を保有



②所有株式数については、優待発送の基準日時点の所有株式数のみで判定いたします。

カーリットホールディングス株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目17番10号
 TEL: 03-6893-7070 FAX: 03-6893-7050

<https://www.carlithd.co.jp>

カーリットHD 検索



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

— 無限の可能性をカタチに —

カーリットホールディングス株式会社

証券コード 4275

カーリットグループは持続可能な社会に 貢献する企業グループとして、 一丸となって挑戦を続けてまいります。

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社グループの2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）が終了いたしましたので、決算の概要および今後の事業展開につきましてご報告申し上げます。

代表取締役兼社長執行役員 **金子 洋文**



》連結業績ハイライト（単位：百万円）

| 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 36,008 (前年同期比6.2%増) | 2,640 (前年同期比5.3%増) | 2,910 (前年同期比6.1%増) | 2,246 (前年同期比3.8%減) |

2023年3月期の業績について

2023年3月期の業績としては、売上高360億8百万円、営業利益26億4千万円、経常利益29億1千万円、親会社株主に帰属する当期純利益22億4千6百万円という結果になりました。この要因といたしましては、グループ全体として原材料価格・エネルギーコストの高騰の影響があったものの、化学品事業部門における化成品分野やセラミック材料分野および産業用部材事業部門における耐熱炉内用金物や各種金属スプリング・プレス品が好調に推移したことが挙げられます。

化学品事業部門においては、電子材料分野がパソコン需要減退の影響を受けたものの、化薬分野における高速道路用信号焰管や化成品分野における塩素酸ナトリウム（紙パルプ漂白剤）や過塩素酸アンモニウム（ロケット・防衛用ミサイル推進薬原料）などが好調に推移しました。また、産業用部材事業部門におけるシリコンウェーハは中国ロックダウンの影響を受けましたが、耐熱炉内用金物が都市ごみ焼却場向けに好調に推移、各種金属スプリング・プレス品も建機向け需要の好調により増収増益となりました。

なお、今期は投資有価証券売却益4億2千4百万円を特別利益に計上いたしました。加えて、一部のグループ会社株式の売却に伴う関係会社株式売却損8千2百万円を特別損失に計上しております。

2024年3月期の見通しについて

2024年3月期の業績につきましては、増収増益を見込んでおります。化学品事業部門は、中国経済の影響から電子機器関連材料の需要の落ち込みはある一方、日本国内の経済成長を受け、自動車向け製品や基礎化学品関連製品の販売は堅調に推移し、ボトリング事業部門においてもインバウンド需要回復によって国内飲料消費が増え、増収増益と予想しております。また、産業用部材事業部門およびエンジニアリングサービス事業部門においても、国内経済の動向に合わせ、堅調に推移すると予想しております。

》2024年3月期連結業績予想（単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 |
|----|--------|-------|-------|---------------------|
| 上期 | 18,000 | 800 | 900 | 750 |
| 通期 | 38,000 | 2,700 | 2,900 | 2,300 |

今後の取り組み

Ⅰ 中長期的な経営ビジョン

グループ経営理念である「信頼と限りなき挑戦」のもとで長期展望を見据え、当社の2030年にありたい姿を「持続可能な社会に貢献するために、“化学”と“技術”の力を合わせ、人びとの幸せな暮らしを支えたい」と決めました。また、新たに事業ポートフォリオ経営を導入し、当社事業群を「注力領域」「育成領域」「基盤領域」という3つの領域に分け、それぞれの領域に適した戦略を推進し、「利益ある成長」の達成を目指します。

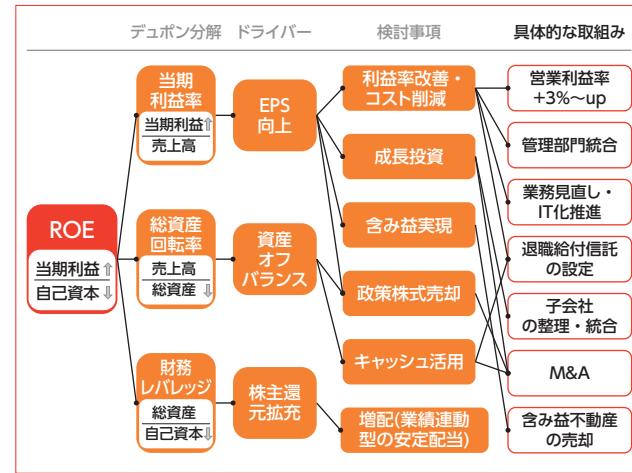
このありたい姿の実現に向け、当社グループは2022年度を初年度とした中期経営計画「Challenge2024」を策定いたしました。経営方針として「事業ポートフォリオの最適化により企業価値の向上を目指す」を掲げ、その方針に沿った「成長事業の加速化」、「研究開発の拡充」、「既存事業の収益性改善」、「ESG経営の高度化」、「事業インフラの再構築」という5つの戦略を軸に、具体的な施策を実行し、当社グループの社会貢献およびコーポレート・ガバナンスのさらなる充実を進めることで、「利益ある成長」と「ESG」を具現化し、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

Ⅰ 中期経営計画「Challenge2024 ローリングプラン2023」

中計初年度の2022年における経営環境の変化や最近の業績動向をふまえ、中期経営計画「Challenge2024 ローリングプラン2023」を策定いたしました。基本方針や戦略に大きな変更はありませんが、「ローリングプラン2023」ではPBR向上を強く意識し、マー

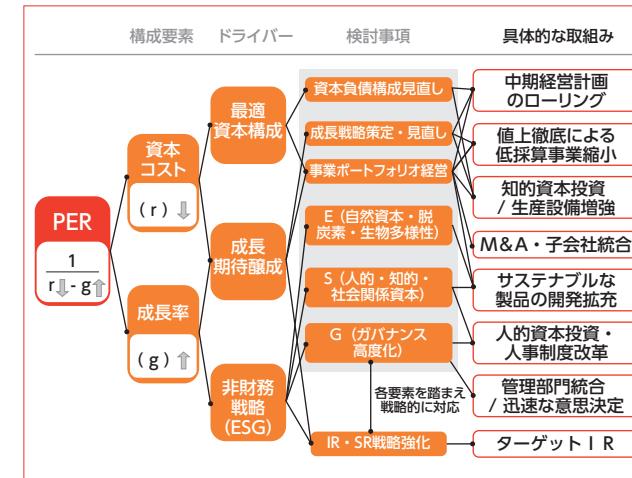
ケットから評価していただけるような戦略を推進してまいります。PBR向上を目指し、ROEとPERを高めるための具体的な施策を追加いたしました。

ROEに対する施策では、「営業利益率+3%~up」の達成を目指すとともに、保有するキャッシュや資産の運用についても見直しを行うことで、今まで以上に資本収益性を意識した取り組みを進めてまいります。



PERに対する施策では、成長戦略の推進とともに、財務・非財務両面からの取り組みを通じ、資本コストの低減を検討してまいります。「Challenge2024」でも掲げていた研究拠点の整備や工場のイノベーションを進めるとともに、人的資本投資や人事制度改革といった非財務面の取り組みを強化します。それに加え、IRやSRといった情報発信についても、ターゲットをしっかりと情報発信を充実させ、より多くの方に弊社の魅力を理解していただきたいと考えております。

カーリットグループは、中期経営計画「Challenge2024 ローリングプラン2023」を策定し、市場から評価していただける企業となるべく様々な取り組みを推進してまいります。



「Challenge2024 ローリングプラン2023」を達成したあかつきには、新たに増やした「3%分の利益」を、「3等分」することをコンセプトとし、さらなるアップデートテーマを検討してまいります。事業ポートフォリオ経営にもとづき、注力・育成領域の投資に1%、

株主還元1%、社員への還元として1%を、それぞれ現在の計画に加えて投資、還元することで、カーリットホールディングスをより活力のあるグループにし、2030年のあるべき姿を実現いたします。

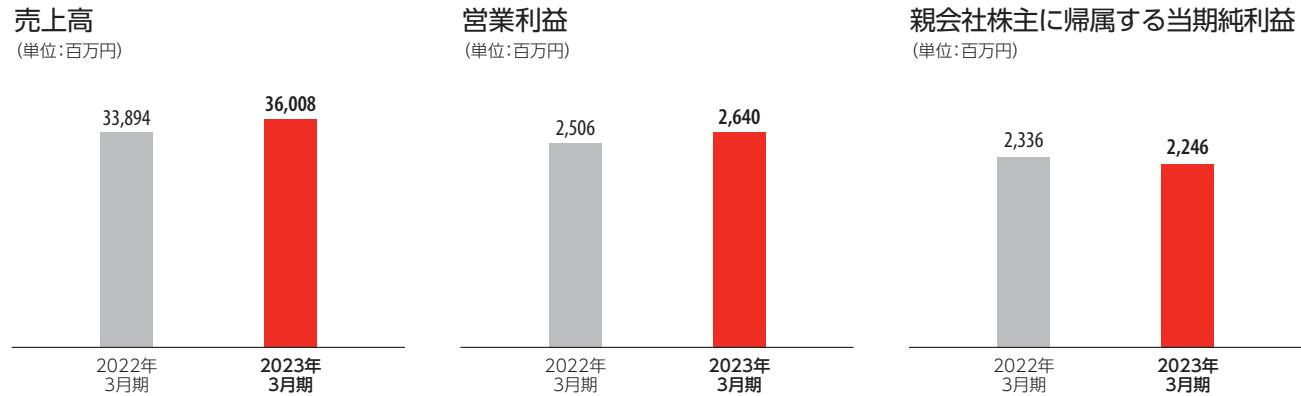
Ⅰ 株主の皆さまへ

当社は塩水の電気分解技術を起点として、長きにわたって日本の産業を支えてまいりました。また、日本の産業構造が変化するたび、当社の創業者の理念である「九転十起」のもと奮闘努力を重ね、様々な事業を展開してまいりました。現在にあっても、事業活動や社内制度改革といった様々な課題に対して企業は適応していく必要があります。左記の2030年のありたい姿の実現に向かって、私自身が先頭に立ち、カーリットグループ一丸となって邁進してまいります。

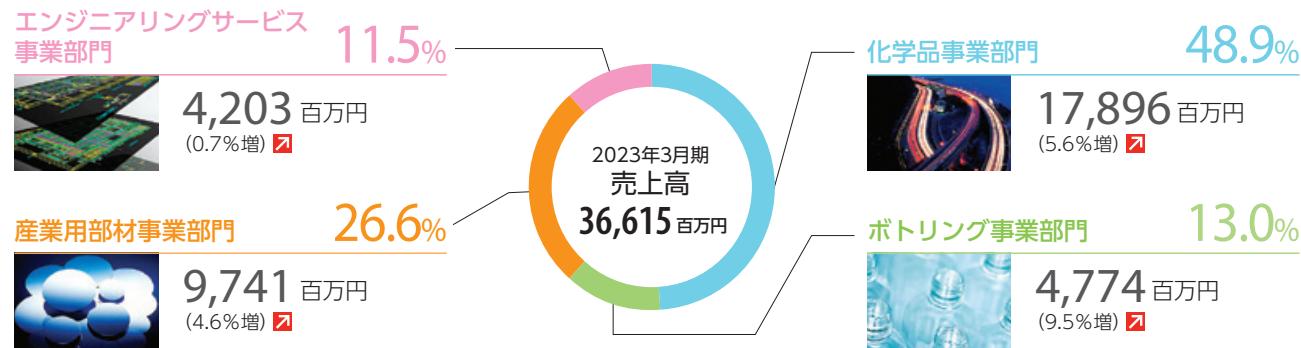
株主の皆さまには、引き続きカーリットホールディングスにお力添えを賜りたく、心よりお願い申し上げます。

当期の業績について

- ▶ 化学品事業では、受託評価分野における危険性評価試験・電池試験や、化成品分野における過塩素酸アンモニウム(ロケット・防衛用ミサイル推進薬原料)が好調に推移し増収増益
- ▶ 産業用部材事業では、耐熱炉内用金物や各種金属スプリングおよびプレス品が好調に推移し増収増益
- ▶ グループ全体で原材料価格・エネルギーコストの高騰の影響を受けたものの、各事業部門において販売価格の適正化を実施

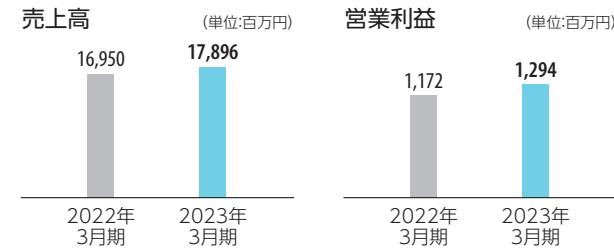


セグメント別売上高構成比



※その他、消去を除いた数値で表示しております。

化学品事業部門
CHEMICALS



売上高 **17,896** 百万円
営業利益 **1,294** 百万円

化薬分野 = 増収増益

- ・産業用爆薬は、不採算製造拠点からの撤退による減収に加え、原材料価格・エネルギーコストの高騰により減益。
- ・自動車用緊急保安炎筒の新車向けは増収。車検交換向けはガラス破壊具付きが豪雨災害対策と安全意識向上により増収。利益面では、原材料価格の高騰などにより減益。
- ・高速道路用信号焰管は、交通量の回復と工事規制需要の増加に加え、適正価格の維持により増収増益。
- ・煙火関連は、花火大会の一部再開により増収増益。
- ・宇宙産業分野では固体推進薬の開発を顧客と共同で進行中。推進薬の製造を行い初号機打上げに向け、射場への納入を完了しました。

受託評価分野 = 増収減益

- ・危険性評価試験・電池試験とも電池開発の活況継続により増収となった一方で、電力価格の高騰などの影響により減益。

化成品分野 = 増収増益

- ・塩素酸ナトリウム(紙パルプ漂白剤)は、適正価格の維持により増収増益。
- ・過塩素酸アンモニウム(ロケット・防衛用ミサイル推進薬原料)は、原材料価格・エネルギーコストの高騰の影

主な事業内容

人々の安全を守る自動車用緊急保安炎筒、リチウムイオン二次電池などの受託評価試験、ロケット推進薬に使用される過塩素酸アンモニウム、パソコンなどに使用される機能性高分子コンデンサ向けピロール関連製品、研削砥石など、確かな技術により、人々の暮らしを支えています。



産業用爆薬

信号用火工品

響はあったものの、ロケット推進薬向けの増販により増収増益。

- ・電極は、適正価格の維持に加え、新規のメッキ用途の受注により増収増益。
- ・過塩素酸は、海外需要の低迷により減収減益。

電子材料分野 = 減収減益

- ・電子材料関連製品は、電気二重層キャパシタ用電解液が増収となった一方で、パソコン需要の減退や中国のロックダウン・電力制限の影響により減収減益。
- ・機能材料関連製品は、近赤外線吸収色素が認証センサーなどの需要拡大により増収となった一方で、中国のロックダウンの影響によるスマートフォンおよびフラットパネルディスプレイ市場の不調などにより減益。

セラミック材料分野 = 増収増益

- ・シェア拡大および新規拡販に加え、適正価格の維持により増収増益。

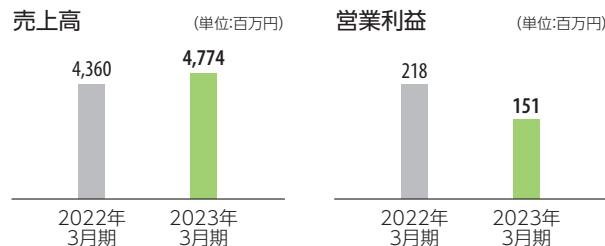
これらの結果、当事業部門全体の売上高は178億9千6百万円(前期比 9億4千6百万円増、同5.6%増)、営業利益は12億9千4百万円(前期比 1億2千2百万円増、同10.4%増)となりました。

ボトリング事業部門

BOTTLING

主な事業内容

人々の暮らしの必需品となったペットボトル飲料や缶飲料の受託製造を行っております。ペットボトル飲料の生産では容器生産、調合、充填、包装、検査まで一貫した生産システムを充実させ、主として茶製品を安定的かつ効率的に生産・供給しております。



売上高

4,774 百万円

営業利益

151 百万円

- ペットボトル飲料は、需要の回復に加え、新規製品の受注により増収。
- 缶飲料は、自販機向けコーヒーの販売減少により減収。
- 委託品は、新規品の受注などにより増収。
- 事業部門全体としては、エネルギーコストの高騰により減益。

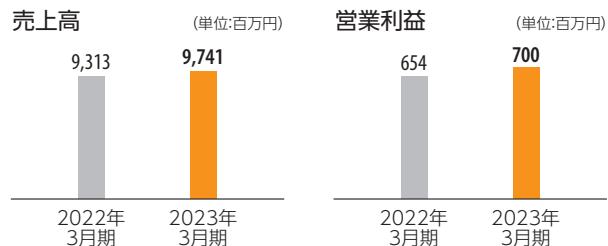
これらの結果、当事業部門全体の売上高は47億7千4百万円（前期比 4億1千4百万円増、同9.5%増）、営業利益は1億5千1百万円（前期比 6千7百万円減、同30.7%減）となりました。

産業用部材事業部門

MATERIALS

主な事業内容

パソコンなどに使われる半導体用シリコンウェーハ、都市ごみ焼却設備に使用される耐熱炉内用金物、自動車・建設機械向け各種金属スプリングおよびプレス品などを製造・販売しており、産業発展に貢献しています。



売上高

9,741 百万円

営業利益

700 百万円

- シリコンウェーハは、上半期においては世界的半導体好況の継続により増収傾向であったものの、下半期は中国のロックダウンを発端とした需要の落ち込みに加え、エネルギーコスト高騰の影響が重なったことにより減収減益。各種センサー・マイクロフォン等に使用されるMEMS（微小電気機械システム）および高平坦度ウェーハを始めとする高付加価値製品の開発・販売は引き続き注力。
- 耐熱炉内用金物は、都市ごみ焼却向けを中心に主要製品であるアンカー・リテーナとも好調により増収増益。
- 各種金属スプリングおよびプレス品は、建機向け需要の好調により増収増益。

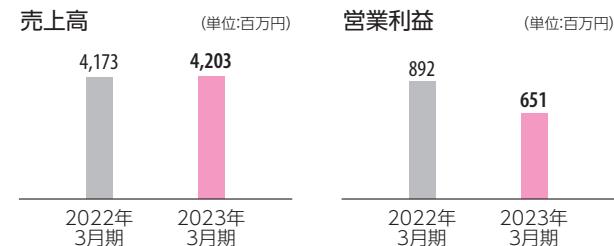
これらの結果、当事業部門全体の売上高は97億4千1百万円（前期比 4億2千8百万円増、同4.6%増）、営業利益は7億円（前期比 4千6百万円増、同7.0%増）となりました。

エンジニアリングサービス事業部門

ENGINEERING

主な事業内容

化学・プラント設備・建築物等のエンジニアリング、工業用塗料販売・塗装工事、上下水道・排水処理施設・建築の設計・監理など、多様な事業を展開しています。



売上高

4,203 百万円

営業利益

651 百万円

- 建築・設備工事は、収益性の高い案件の減少により減収減益。
- 塗料販売・塗装工事は、市場環境の好調により増収増益。
- 構造設計は、市場の競争環境が激化傾向にあり、収益性の高い案件が減少したため減益。

これらの結果、当事業部門全体の売上高は42億3百万円（前期比 3千万円増、同0.7%増）、営業利益は6億5千1百万円（前期比 2億4千1百万円減、同27.0%減）となりました。

TOPICS

～健康経営優良法人 2023認定～

カーリットグループは、経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人認定制度」における「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）」に認定されました。

健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

カーリットグループは、2022年8月に「健康経営宣言」を表明し、人事部や健康保険組合が連携してこれを推進しています。今後も従業員の健康保持・増進に取り組み、健康経営をより一層強化・推進することで、企業価値のさらなる向上を目指します。



(単位:百万円)

| 連結貸借対照表 | | |
|----------------|--------------------|--------------------|
| 科目 | 当期 2023年3月31日現在 | 前期 2022年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 22,027 | 20,785 |
| 固定資産 | 29,202 | 29,293 |
| 有形固定資産 | 18,898 | 19,361 |
| 無形固定資産 | 85 | 96 |
| 投資その他の資産 | 10,218 | 9,834 |
| 資産合計 | 51,230 | 50,078 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 10,029 | 11,100 |
| 固定負債 | 8,021 | 8,074 |
| 負債合計 | 18,051 | 19,174 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 28,420 | 26,634 |
| 資本金 | 2,099 | 2,099 |
| 資本剰余金 | 1,190 | 1,192 |
| 利益剰余金 | 25,371 | 23,509 |
| 自己株式 | △ 241 | △ 166 |
| その他の包括利益累計額 | 4,758 | 4,269 |
| 純資産合計 | 33,179 | 30,903 |
| 負債純資産合計 | 51,230 | 50,078 |

(単位:百万円)

| 連結損益計算書 | | |
|------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 科目 | 当期 2022年4月 1日から 2023年3月31日まで | 前期 2021年4月 1日から 2022年3月31日まで |
| 売上高 | 36,008 | 33,894 |
| 売上原価 | 27,321 | 25,246 |
| 売上総利益 | 8,686 | 8,647 |
| 販売費及び一般管理費 | 6,046 | 6,140 |
| 営業利益 | 2,640 | 2,506 |
| 営業外収益 | 372 | 468 |
| 営業外費用 | 102 | 232 |
| 経常利益 | 2,910 | 2,742 |
| 特別利益 | 431 | 500 |
| 特別損失 | 99 | 237 |
| 税金等調整前当期純利益 | 3,243 | 3,005 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 906 | 693 |
| 法人税等調整額 | 89 | △ 25 |
| 当期純利益 | 2,246 | 2,336 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 2,246 | 2,336 |

(単位:百万円)

| 連結キャッシュ・フロー計算書 | | |
|-------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 科目 | 当期 2022年4月 1日から 2023年3月31日まで | 前期 2021年4月 1日から 2022年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,064 | 3,063 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 65 | △ 984 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,784 | △ 3,981 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 5 | △ 3 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 219 | △ 1,906 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,589 | 5,496 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,809 | 3,589 |

》会社概要 (2023年3月31日時点)

商号 カーリットホールディングス株式会社
(英文社名 Carlit Holdings Co.,Ltd.)
設立 2013年10月1日
資本金 2,099百万円
従業員数 1,082名(連結)

》主なグループ会社 (2023年3月31日時点)

● 化学品事業部門

日本カーリット株式会社 化学・化学品・電子材料品・研削材・煙火用材料等の製造・販売、危険性評価試験および電池試験の請負
佳里多(上海)貿易有限公司 化学品および電子材料等の仕入・販売

● ボトリング事業部門

ジェーシーボトリング株式会社 清涼飲料水のボトリング加工・販売

● 産業用部材事業部門

株式会社シリコンテクノロジー 半導体用単結晶シリコンおよび半導体用シリコンウェーハの製造・販売
並田機工株式会社 各種耐熱炉内用金物の製造・販売
アジア技研株式会社 スタッドおよび溶接機械の製造・販売
東洋発條工業株式会社 自動車および建設機械向け各種金属スプリングおよびプレス品の製造・販売

● エンジニアリングサービス事業部門

カーリット産業株式会社 エンジニアリング、建設業務、白蟻防除の施工・請負
南澤建設株式会社 建築工事・土木工事の設計・施工
富士商事株式会社 工業用塗料販売および塗装工事
株式会社総合設計 建築物、工作物、上下水・排水処理施設等の設計および監理
株式会社エスディーネットワーク 建築の設計および監理並びにコンサルタント業務

》役員 (2023年6月29日時点)

取締役

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文
取締役兼執行役員 谷内 俊文
取締役兼執行役員 小川 文生
取締役兼執行役員 山口 容史
取締役(社外)* 山本 和夫
取締役(社外)* 新保 誠一
取締役(社外)* 村山 由香里

監査役

常勤監査役(社外)* 野沢 勝則
監査役(社外)* 藤原 康弘
監査役 青木 章哲
監査役 岩井 常道

執行役員

執行役員 岡本 英夫
執行役員 高橋 茂信
執行役員 天内 心
執行役員 中津 隆一

*を付した役員は東京証券取引所に独立役員として届け出ております。

(2023年3月31日時点)

》株式の状況

発行可能株式総数 80,000,000株
発行済株式の総数 24,050,000株
単元株式数 100株
株主数 36,801名

》大株主

| 株主名 | 所有株式数 (千株) | 持株比率 (%) |
|--|---------------|-------------|
| みずほ信託銀行(株)退職給付信託 丸紅口 再信託受託者 (株)日本カストディ銀行 | 1,997 | 8.3 |
| 日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口) | 1,807 | 7.5 |
| 日油(株) | 915 | 3.8 |
| みずほ信託銀行(株)退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 (株)日本カストディ銀行 | 913 | 3.8 |
| 明治安田生命保険(相) | 700 | 2.9 |
| 長瀬産業(株) | 700 | 2.9 |
| 芙蓉総合リース(株) | 522 | 2.2 |
| 関東電化工業(株) | 464 | 1.9 |
| カーリットホールディングス従業員持株会 | 420 | 1.8 |
| ダイソーケミカル(株) | 418 | 1.8 |

》所有者別株式分布状況

